

第2回甲斐市総合教育会議議事録

- 1 日 時 令和元年10月10日(木)午後1時30分
 - 2 場 所 甲斐市役所 新館2階 教育委員会会議室
 - 3 開 会 午後1時30分
 - 4 出席者 保坂武市長 三澤宏教育長
柳本博美職務代理者 中込正久委員
長田明美委員 小林啓子委員
 - 5 傍聴人 なし
 - 6 事務局 小田切聡企画政策部長 樋口充教育部長
丸山英資秘書政策課長 加藤文雄教育総務課長
興石信学校教育課長 大木康総合政策係長
名取藤吾教育総務係長 柴崎唯教育総務係員
 - 7 市長あいさつ
 - 8 議題 (1) 第2次創甲斐教育推進大綱(案)の概要について
(2) その他
 - 9 その他
 - 10 閉 会 午後3時00分
- 開 会
事務局 開会を宣する。
- 市長あいさつ

市長

皆様、こんにちは。本日は、お忙しい中、令和元年度第2回 総合教育会議に、ご出席いただき、ありがとうございます。

また、教育委員の皆様には、平素より、甲斐市の教育行政の推進に、ご尽力をいただいております、心から感謝申し上げます。

さて、本日は、前回の会議に引き続き、第2次 甲斐市創甲斐教育推進大綱の策定に向けた協議をお願いいたします。

これまで、関係課の職員や学校関係者による「創甲斐教育推進大綱プロジェクト・チーム会議」を4回、教育関係者と有識者等で構成する「創甲斐教育推進大綱策定会議」を5回、それぞれ開催したところであり、毎回熱心な議論が交わされていると伺っております。

創甲斐教育 推進大綱は、本市の教育振興の基本となる計画であり、本市の目指す教育のあり方を示す、非常に重要なものでありますので、皆様から、多くのご意見をいただきたいと思っております。

限られた時間ではございますが、是非、活発なご論議をいただき、有意義な会議となりますよう、ご協力をお願い申し上げます、私のあいさつとさせていただきます。

よろしくお願いいたします。

○議題

(1) 第2次創甲斐教育推進大綱（案）の概要について

基本目標1 「今を生き、将来を生きる力を育む甲斐っ子づくり」

事務局

(資料説明)

市長

説明が終わりましたが、ご意見、ご質問ございますか。

委員

基本方針1 「バランスのとれた知・徳・体の育成」で、「学校教育全体を通して、思いやりの心やお互いを尊重する態度を育むとともに、一人ひとりの子どもが「楽しい」と感じられる学校づくりを目指します。」とあり、その上に「基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ」という手立てがあります。そしてその下には「体育・健康に関する指導を適切に行うことにより」という手立てがあります。この、「学校教育全体を通して、思いやりの心やお互いを尊重する態度を育む」という文

章は分かるのですが、そこに「道德教育の充実」という一言が入った方が、より「徳」の部分の説明になると思います。もちろん学校教育全体で育むのですが、手立てとしてそこだけ抜けているように感じます。

委員

第4章 「本市教育の目指すべき方向」の基本理念「甲斐市で育ち、甲斐市を育てる人づくり」において、創甲斐教育を表す図が「家庭」と「地域社会」と「学校」と「甲斐市の子どもたち」が重なっていません。これだと全く関係ないようになってしまいます。「地域社会」と「学校」も「家庭」と「地域社会」も重なりますし、「学校」と「家庭」でも重なるようにしなければいけません。全てが重なるところに「甲斐市の子どもたち」がいるというようにした方が良いと思います。

また、項目の上位と下位の区別がつきません。どちらも同じように書かれていますので、上位だとわかるように一字上げるなどしたほうが読み手には分かりやすいと思います。

委員

私も同じ意見で、上位の項目と下位の内容の方が大きな字を使われています。上位の方へ網かけするなどした区別が必要かと思います。

事務局

印刷につきまして、現状は手打ちで入力しております。最終的には印刷業者にデザインなどを要望しながら行う予定です。

教育長

段落を上位、下位と見やすくレイアウトを変えていく予定です。

事務局

1つ目にご指摘がありました「道德教育の充実」については、「道德教育の充実を図り」などの手立てを入れながら、それを中心に思いやりの心やお互いを尊重するといった表現に流れるよう修正していきたいと思います。

事務局

2つ目にご指摘がありました「家庭」と「地域社会」と「学校」と「甲斐市の子どもたち」を表す図については、3つの円を重ねて、その真ん中に「甲斐市の子どもたち」がくるように修正をしたいと思います。

委員

教科としての道德としての取り扱いとなってきました。それが以前は教科としてではなく、授業の中で位置付けていました。教科となったことにより目的が変わってきているように思います。特別な教科としての道德の取り扱いと「知・徳・体」がどれだけ関わっているのかが見づらくなっています。そこを創甲斐教育の中でどう取り扱っているのかと

ということを見せれば良いと思います。取り扱いが変わってきていることにキーワードがありそうな気がします。

委員 「知・徳・体」自体が間違っているのです。「知・情・意・体」の上に「徳」があるのです。

委員 特別な教科になったということは、より道德教育の充実をはかるための1つの手段となっていて、今までも週1時間の道德の時間というのは位置付けられていたものですので、それがより明確になったということで良いのではないのでしょうか。

事務局 基本方針1にあります文章は総括的なものになりますので、「道德教育の充実を図り」という文章をそこに謳いながら、具体的にどう図っていくのかは、「特別な教科 道德」については施策の内容①「道德教育の充実」の内容で具体的にしていくといった方が、上位・下位という考え方の上では良いと思います。

委員 基本目標2「人生を豊かにする学びとスポーツの環境づくり」の基本方針5「スポーツの推進」において、「スポーツは市民が生涯にわたり、自主的かつ自律的にその適正及び」といった文章がありますが、ここでの「てきせい」はその人の数字が正しい「適正」という意味ではないと思いますので、「適性」が正しいと思います。

事務局 ご指摘の通り誤字です。修正します。

委員 基本方針6「図書館活動の推進」において、「全ての市民のニーズ」とあり、「全て」が漢字を使っていますが、施策の体系ではひらがなの「すべて」を使っていますので、統一をした方が良いと思います。

教育長 「すべて」という言葉は多く使われていますので、統一をしたいと思います。

委員 第2章「教育を取り巻く社会」の⑦体育・運動能力において、「本市の児童生徒の体力はすべての学年で全国平均を下回り」とあり、その背景に「インターネットやSNS、オンラインゲーム、動画を夜遅くまで利用する」ととされていますが、それは全国的なことで、甲斐市が低いのはそれが原因だとは言えないと思います。

事務局 この分析については甲斐市がデータをこのために集めたものではな

く、子どもたちの様子を見る中、学校教育課で考えたものです。ご指摘の通り全国的にみられる部分ですが、過去5年間で甲斐市の中でも非常に小学校段階を中心にスマートフォンの所持率が高くなっているのも、甲斐市ではより一層こういったことが顕著に起こっているのではないかとということで書かせていただきました。また、クラブチームの加入についても運動する子としない子の二極化が進んでいることも指摘をされる中で、分析をしました。認識が違うという部分については、他の原因が考えられるのかどうか検討をさせていただきたいと思います。

委員 スポーツ少年団が減少傾向にあるということは確かです。そういったことを書くというのなら良いと思います。しかし、全国的な傾向と甲斐市の傾向が同じであるので、それが特別な原因とはならないと思います。

委員 基本目標1の内、施策項目(3)「健やかな体の育成」の「学校の教育活動全体を通じて、基礎体力の向上を図るための取り組みを充実させる」とありますが、「学校の教育活動全体を通じて」は体力や健康に関する指導なので、無くても良いと思います。

委員 体力や食育、健康とあるので、学校教育全体ということではないでしょうか。

事務局 「学校の教育活動全体」と言ってしまうと、全ての教科と捉えられてしまうかもしれません。しかし、体力であれば決して体育の時間だけではなく、部活動や行事の取り組みや業間の運動を通して図られているため、全体ではないかもしれませんが、1つの教科ではなく、いくつかにちりばめられているといった意味合いです。食についても、給食の時間だけでなく、家庭科や保健・体育科でも行いますので、いくつかの分野にわたっているという意味で教育活動全体という表現をつけました。しかし、厳密にいうと全体ではないので、そこは表現を検討していきたいと思います。

委員 第4章「本市教育の目指すべき方向」の基本理念の考えについて、「甲斐市で学び育つ子どもが心身ともに一人前の人間に成長し」とありますが、心身ともに一人前とは、例えば障がいのある方や発達障害のある方、性同一性障害のある方などいろいろな子どもたちがいる中で、この「一

人前」という表現に抵抗を感じます。「一人前」という言葉は無くし、「心身ともに成長し」という言い方で良いと思います。

事務局 誤解を生むような表現は避けた方が良いと思いますので、そう受け取られるのであればこちらの本意ではないので検討していきたいと思います。

委員 基本方針6「図書館活動の推進」とありますが、ただ本を読むだけでなく、資料を得ることやインターネットで調べることをサポートすることが図書館活動の中に入ると思います。

教育長 後程のページに細かく乗っていますので、こちらはある程度簡略化させていただいております。

委員 その後ほどの内容についても、図書館とは本を読むだけでなく、インターネットも見られますので、生涯学習でもご年配の方に教えているということも含めた方が良いと思いました。

教育長 施策の内容③「インターネット利用の充実」内に細かく入れさせていただいています。

委員 生涯学習文化活動の推進やスポーツの推進の中にも図書館の利用の関連のメインになってくると思います。本だけ揃えれば良いということではなく、知りたいことを調べるのにもインターネットの方がずっと良いです。そういったことをご年配の方にも知らせてあげることが図書館活動の新しい生涯学習の推進の一つになるのではないのでしょうか。

教育長 基本方針6の書き方については、量的な問題もありますので再検討させていただきます。

市長 他に、ご意見、ご質問ございますか。

一同 異議なし。

基本目標2 「人生を豊かにする学びとスポーツの環境づくり」

事務局 (資料説明)

委員 施策項目3「子ども読書活動の推進」についてですが、「読書は自発的・内発的な活動であり、決して強制や干渉をするものではない」とあ

りますが、「決して強制や干渉をするものではない」という文章は必要でしょうか。「自発的・内発的な活動であり、子どもたちに読書の楽しさを感じさせる取り組みを推進します。」としてしまった方が良いと思います。

また、施策項目1「生涯学び、活動できる環境の整備充実」の施策の内容③「生涯学習環境の充実」に「社会教育士」という言葉がありますが、聞いたことがありませんでした。どういったものなのでしょう。

事務局
教育長

新しくできたものになります。

県に規定があり、そこに説明がありました。注釈を入れるか検討します。

委員

まだ説明に入っていませんが、基本目標3「誰もが安心して学べる教育環境づくり」の基本方針7「質の高い教育のための環境整備」の内、施策項目1「学校における働き方改革の推進」の文章で「教職員一人ひとりが子どもたちを向き合い」とありますが、「子どもたちに向き合い」か「子どもたちと向き合い」の方が良いと思います。

委員

施策項目3「文化芸術に親しむ機会の充実」についてですが、今日の山日の子ども版にラザ・ウォークの駐車場の一角に緑地がありますが、そこに石室があるとありました。私も知りませんでした。一般的に皆が意識できることを書いていなければなりません。市内に「文化財が沢山あります」や、「守ります」という理念的なことばかり書かれています。学校へ貸し出したりもすると思いますが、利用の方法や目標がありません。文化財があるところが何処かもわかりません。一般の人からすれば、何かの催しでもない限りは分からないと思います。金ノ尾遺跡が登呂遺跡よりも先に発見されていて、うまく整備していればこちらの方が有名になったと聞いたことがあります。

教育長
委員

周知については入れるべきかと思いますので、検討します。

具体的な手立てはどうするかという問題で、まちづくりマップに落とすなど一緒に見ることができるものがあると良いと思います。私たちの年代は市統合から15年で、その前の自分の地域を知っている人たちは他の地域まで知ろうなんていうことはありません。今の人たちが、そこ

まで配慮するという意識が少ないのだと思います。それが今の15歳の
子が30歳や40歳になったときにそこまでしなさいとなったら、そこま
で甲斐市を見ていくと思いますが。

委員 縄文時代にこういった良いものがあったという、地域の歴史マップを
作るということが良いと思います。そうすれば、学校にも配ることがで
きます。

委員 基本方針5「スポーツの推進」において、施策項目1「スポーツ事業
と活動機会の充実」の施策の内容①「スポーツへの興味と活力の醸成」
の文章に「経験や自信に問わず」とありますが、ここは「自信に問わず」
ではなく「力量」の方が良いと思います。自分ができるかどうかという
ことですよね。「自信」というとあいまいに感じますがいかがでしょう
か。

教育長 「自信」を入れるかどうか検討させていただきます。

市長 その他ご意見、ご質問ございますか。

一同 異議なし。

基本目標3 「だれもが安心して学べる教育環境づくり」

事務局 (資料説明)

委員 施策項目3「安全・安心で質の高い教育環境の整備」の内、施策の内
容③「ICT環境の整備」において、「教育成果等の情報を守るため」
とありますが、ここは「保護するため」の方が良いと思います。

事務局 「保護するため」と訂正させていただきます。

教育長 校務支援システムについての事が書かれている箇所がいくつかあり
ますが、以前の表現には「構築」という言葉が使われておりました。来
年4月からの計画なので、その「構築」を消した形に変更したのだと思
いますが、施策項目1「学校における働き方改革の推進」の内、施策の
内容①「学校における業務の効率化の推進」において、「県と一体とな
って校務支援システムを活用し」とあります。ここは「県と一体となっ
て」ではなく、「令和2年4月に新稼働する校務支援システムを活用し」
とした方が良いと思います。

また、施策項目3「安全・安心で質の高い教育環境の整備」の内、施策の内容③「ICT環境の整備」において、「県と各市町村が一体となって校務支援システムを活用し」と書かれています。ここは「県と各市町村が一体となって」ではなく、その次に目標となる指標があるので、「十分に活用するためのマニュアルの整備」などとした方が良いでしょう。そうすることにより、指標の「あなたは校務支援システムを十分に活用できていますか」という設問が生きてくると思います。

事務局
市長
一同
事務局
委員

検討させていただきます。

その他ご意見、ご質問ございますか。

異議なし。

(資料説明)

外部人材についていろいろとありますが、学校が地域に対して何かするといったことは書かれていません。そういった視点も今から必要ではありませんか。

教育長

基本目標3のうち施策項目2「家庭・地域・学校の連携・協働の推進」において、コミュニティ・スクールについての記載がありますので説明をさせていただきます。

事務局

(資料説明)

学校から地域に対しての記述はありません。

委員

地域の力は学校に欲しいと思います。学校が地域の子どもを優秀に育てるというのは本分ですが、地域の人が学校を助けるというのは本分ではありません。しかし、学校はボランティアが欲しいのです。であれば、運動会に高齢者を招くなど、学校も地域に対しての働きかけも必要だと思います。そういった視点が全くありません。以前、私が別の学校の校長であった際に、そこは地域と学校が一体となっているような所でしたが、学校の先生も自分で手芸講座を開き、地域の人を呼んでいたりしました。

私も釣り講座を開き、子どもに釣り道具の作り方を教えました。開かれた学校といったことがありませんし、学校から地域へ働きかけていく、昔で言えば恩返しをするという観点があっても良いと思います。

- 委員 特殊な地域の小規模な集落であれば、今のようなお話もできるのかもしれませんが、これだけの規模になると厳しいかもしれません。コミュニティ・スクールを充実することが地域への貢献となっていくのではないのでしょうか。子どもたちと共に物事をやっていく機会を与えて、協力してもらおうという感覚で行った方が広い地域では通用すると思います。
- 委員 敷島南小では図書室が別になっており、そこへ地域の方を招いて一緒に本を読んだり、学校施設を開放したり、パソコン教室で一緒に学んだりなど、新しいことをして、学校ができる生涯学習のお手伝いをできる面があればいいと思いました。
- 委員 地域の方と触れ合ったり、高齢者の方が児童の安全を見てくださった時は子どもから感謝の手紙を出したり、普段から気軽に挨拶をするなどでも良いと思います。そういったことでも、双方向にメリットがあり、潤っていると思います。
- 今仰ったように、教員の方が地域のために何かするというのも、教員の多忙化にも繋がってしまうかもしれません。
- 委員 教員が教室の中で同じようなパターンでできることに地域の方を呼んだり、発表会に呼んだりするのも良いと思います。双方向で互いに助け合うような観点が必要ではないでしょうか。
- 事務局 ここ何年かは小学校を中心に、地域の方に授業や教育活動に参加していただいて、子どもたちに関わっていただく機会が増えています。ご指摘の通り、その後に多くの学校でお礼のお手紙などを差し上げながら頂いたものを気持ちとして文面に返していくという事は行っています。
- しかし、さらに学校の教員の負担にならないように学校の行事に積極的に地域の方を入れていく、或いは中学生であれば、郷土に愛着を持つために地域の通学路の清掃をしたり、ボランティア活動で地域に貢献するなども、学校の実態にもよりますが、検討していきたいと思います。地域に返せるものは返していくということはとても大切なことだと思いますので、どこで何をするかということはまた考えていきたいと思っています。

- 委員 全体を通して感じたことですが、基本目標1の基本方針2のうち施策の内容②「才能や個性を伸ばす教育の推進」とありますが、今までは「能力」や「個性」といった言葉が使われていましたが、今回は「才能」という言葉を使っていて、これは画期的で、適切な言葉だと思いました。才能があつて能力が見えるのかと思います。「個」を生かすということになると、「能力」よりも「才能」という言葉を使った方が良いと思いました。その辺は捉え方にもよるかと思いますが、とても画期的な言葉だと思いました。
- 市長 ノーベル賞を受賞されるような人は「才能」があつて、その「才能」を生かしていくことが「能力」ということだと思います。「才能」と「能力」では意味が異なるのですね。
- 事務局 「才能」はあるという言い方をしますが、「能力」はあるとも言いますし、高いとも表現します。「才能」が一番の基になるのだと思います。
- 事務局 「才能」は生まれつき持っているものですが、「能力」は物を成し遂げるための力なので、先に「才能」が来るのだと思います。
- 市長 「才能」がないとダメということですか。
- 委員 「個性」は「才能」と捉えるので、こういった文章表現になったのだなと思い、素敵な言葉だと思いました。
- 事務局 指標の関係が、「アンケートにより」といった言葉が多く出てきてしまっています。そうすると、教育委員会での考え方が出てこないように思います。例えば、コミュニティ・スクール指定校は双葉西小学校があり、それを拡大していくという教育委員会としてのスタンスがあるのなら良いのですが、これをアンケートで整理している内容があります。アンケートの回答はみんなの主義主張が出づらいことが多いと思います。
- 教育長 もともとの出だしはアンケートの数的なものを取り出したということから始まったのだと思いますが、今、仰られたようなことを書くということは難しいと思います。
- 事務局 「この計画は〇〇をします」とあり、何をするのが見えないということがあります。目標値の設定があれば何をやるのか分かるのかと

思います。

教育長 現状は抽象的な表現になっていますが、より具体的なものを書こうとすると、お金を伴うものもあるので、詳細には書くことができません。事業を進めていく上で、こういったやり方があるのかという具体的な施策が1年ごとの計画の中に出てきます。それについては、予算も絡めたものを1年ごとに作成しているので、そこで表現したり、予算が付いたものに対してはその事業をさらに考えていきます。

事務局 逆に、予算を付けるためにあえてここに謳うという考え方もあると思います。学校教育の充実のために、ALTの教員の数を増やしたいという計画を入れておけば、財政に伝えられると思います。

事務局 根本的に、今度上位計画である甲斐市総合計画でも指標を作ることになりますが、その中でアンケートが多いと教育委員会としての考え方があまり反映されていないことになると思います。

教育長 アンケートが数的にやりやすいために使っているのだと思いますが、これはあくまで指標の中の一部であって、これだけ達成すればいいということではありません。また、個別計画の中で具体的に行わせていただきたいと思います。

市長 いろいろとご提案や訂正を頂きましたが、いずれにしても第2次創甲斐教育推進大綱の素案については、前に進めていかなければなりません。これを訂正し、仕上げていくということでよろしいでしょうか。異議なし。

市長 「きずなの日」という記述があり、今朝のニュースで言っていましたが、小学校27.2%や中学校21%というのは県下的には低いようでした。こういったプログラムを組むのは大変だと思いますが、頑張っていたきたいと思います。

事務局 今後の予定についてご説明させていただきます。

(資料説明)

12月16日から1月9日にかけてパブリックコメントを実施し、2月にその結果を受けて総務教育常任委員会、部長会議へ報告し、第6回策定会議等を開催し報告をしまして成案とします。3月下旬に市内

全戸へのリーフレット配布及びホームページで公開をする予定です。

教育委員の皆様には定例教育委員会で報告をさせていただきたい
と思います。

市 長 何かご意見、ご質問はございますか。よろしいですか。
一 同 異議なし。

○その他
事務局 皆様からご意見、ご質問はございますか。よろしいですか。
一 同 異議なし。

○閉 会
事務局 閉会を宣する。

閉会時間 午後 3 時 0 0 分